

# 波動 PART2



2019年(令和元年)

5月20日(月)

第89号

## トライやる・ウィーク保護者説明会 参加ありがとうございました

5月17日(金)に行いました、トライやる・ウィーク保護者説明会に、たくさんの方にご参加いただきました。ありがとうございました。

6月3日～7日に行われるトライやるウィークについてと、3年生で行います「修学旅行」の費用の積立についての説明をさせていただきました。また、1年生で行いましたスキー実習の様子をまとめたDVDを上映致しました。出席されませんでした保護者様には、お子さんを通じて、配布致しました資料をお届け致します。分からない事やご質問がありましたら、学校の方に問い合わせいただければと思います。

さて、トライやる・ウィークが2週間後に迫って参りました。ほとんどの事業所では、今日(20日)、多くの事業所で事前訪問を行いました。(先週行った所や今日以降の事業所もあります)初めて行く所もあり、緊張していた生徒もいたのではないかと思います。あいさつや言葉遣いなど、うまくできたかご家庭で聞いていただければと思います。これからトライやる本番まで、活動内容の再確認や、持ち物の確認等、活動に向けて、学校で取り組みを進めて参ります。よろしくお願い致します。トライやる・ウィークで経験したことを、今後のキャリア教育にも役立てて参りたいと考えております。2年生のキャリア教育は、2学期後半より取り組んで行く予定です。生徒1人1人の適性或高等学校について(受験可能な高校)等の学習を行う予定です。また保護者のみなさんにも、情報提供の機会を設けたいと考えております。詳しい日程が決まりましたら、またご連絡したいと思いますので、よろしくお願い致します。

また、修学旅行費用につきましては、旅行社より説明がありましたが、封筒に入っておりました旅行積立の申込書を5月27日(月)締め切りで回収致します。それまでに必要事項を記入いただき、学校にご提出ください。修学旅行の取り組みは、3学期から開始する予定です。日程や行程などが決定しましたら、お知らせしていきたいと思っております。

### 不器用な子どもほど、うまくできるようになる。

中谷 彰宏(大阪附堺市出身 作家 俳優)

「子どもが不器用なのですが、どうしたら器用になれるか」と相談されたことがあります。不器用なことはいいことです。不器用な子どもほど、感動することができます。感動はできなかった事がやっとならできるようになった時にするものだからです。

最初から簡単にできてしまうと、感動することができません。感動することで、勉強や習い事を続けるモチベーションが高まります。教えたことがすぐできてしまうと「もういいや」と長続きしません。逆になかなかできない事は長続きします。結果的に長続きする事で、簡単にできた子より、

もっと難しい事まで挑戦でき、達成できるようになるのです。

芸術やスポーツの世界では、子どもの時の不器用だったという人が少なくありません。人はできない事をできるようにするために、脳をフル回転させて、能力を最大限引き出そうとします。

ですから子どもがなかなかできない時に、親として言うてはいけないセリフが3つあります。

- ①「まだできないの」  
子どもを焦らせると、せっかく脳をフル回転させていたのに辞めてしまいます。
- ②「○○ちゃんは、もうできたよ」  
できるまでの時間には、個人差があります。遅いのではなくていねいにしているのです。

- ③「不器用ね」  
そう言われると自分は『できない人間だ』と思い込んでしまいます。  
では、言うて欲しい言葉とは、

- ①「頑張っていて、えらいね」
- ②「ゆっくりすれば、いいよ」
- ③「見間違えるように、良くなったね」

手先の器用さだけでなく、その子のやる気やモチベーションもお父さん、お母さんの一言で全く変わります。



※中学生でも同じです。特にトライやる・ウィークでは、慣れない事やできないことの連続です。そんな時は、ご家庭で良く話をしていただき、お子さんとのコミュニケーションの時間をいつもより多く取っていただければと思います。よろしくお願い致します。

#### 学習ノート終了

18冊目	2組
17冊目	1組
7冊目	2組
4冊目	1組

プロスポーツの世界はとても厳しいものです。入団した頃はどのスポーツでも一流といわれる選手が集まっているわけですから、レベルの高い選手ばかりです。しかしその中でも差が生まれます。入団してから開く差とは何によって生まれるのでしょうか。現在野球解説者として活躍されている野村克也さんは、(監督時代多くの優秀選手を育て上げた名将です。)  
「感性」が決め手と言われてます。感じる力が優れている選手は、相手の動き、試合の流れなどわずかな変化でも気づき対応できる。修正能力にたけ、同じ失敗を繰り返す事をしません。だから伸びると言われています。しかし野村さんがもっとも重視していたのは、「親を大事にしているかどうか」でした。人に感謝できる心、それこそが「感じる心の根っこ」であると言われてます。今の自分があるのは誰のおかげか。両親、親族、友達、恩師・・・。励まし、支えてくれた人達の存在を強く思えば勇気がわき起こり、絶対に負けられないという自信につながるものです。

